

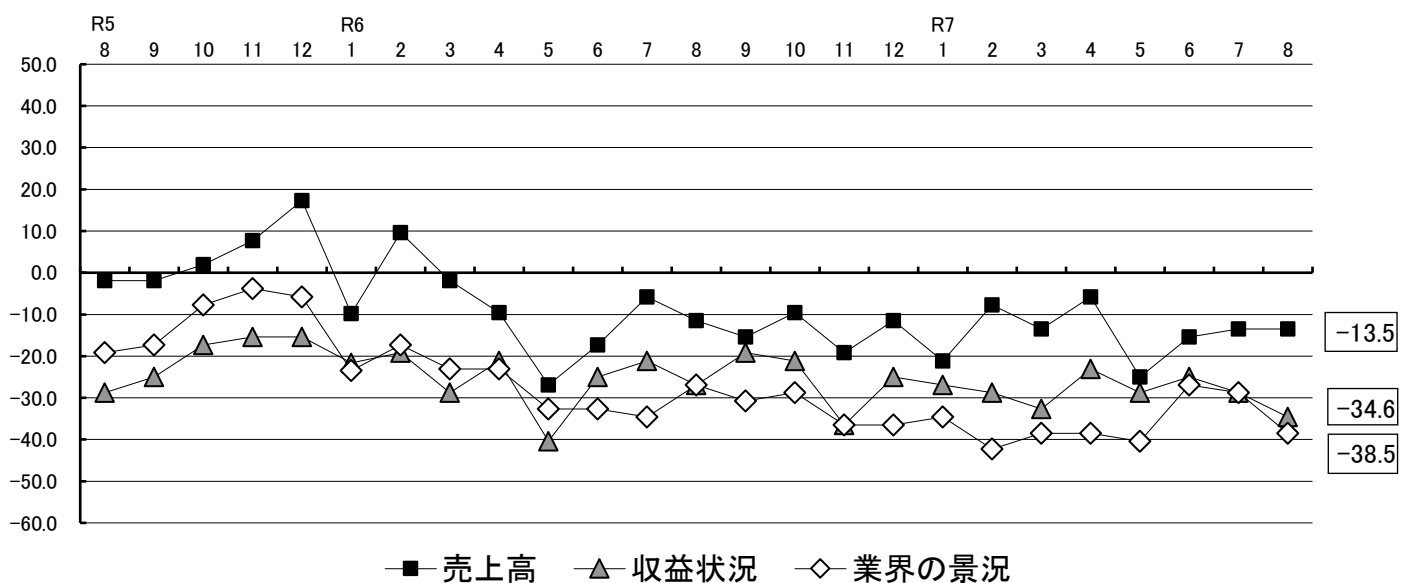
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和7年8月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員 5 2 名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 8月の前年同月比 DI 値は、前月と比べて、主要 3 指標では「売上高」では変化が見られなかったが、「収益状況」と「業界の景況」の 2 指標は低下した。その他の指標では、「設備操業度」が上昇したが、他の 5 指標が低下した。
- 多くの業種で、物価上昇による経費増加に加え、最低賃金の引上げによる人件費の上昇に対しての価格転嫁が追いついておらず、収益を圧迫している。
- 連日の猛暑により、客足の減少や消費の停滞が見られ、熱中症対策に伴う経費増加が企業の負担になっている。さらに、米国関税問題や金利の上昇も重なり、先行きが見通せない状況が続いている。

県内主要 3 指標の推移(前年同月比 DI 値)



主要3項目	県内		全国	
	DI 値	前月比	DI 値	前月比
売上高	-13.5	0.0	-16.4	-3.6
収益状況	-34.6	-5.8	-27.9	-2.3
業界の景況	-38.5	-9.6	-29.7	-2.3

売上高

当月の県内売上高 DI 値は、前月と変わらず-13.5 ポイントとなった。全国においては、3.6 ポイント低下し、-16.4 ポイントとなった。

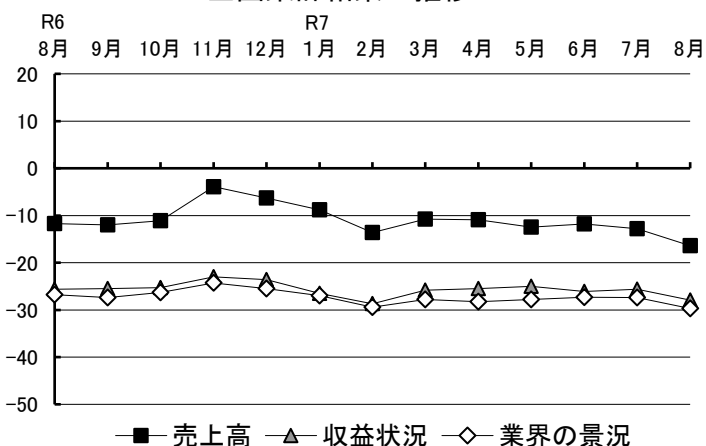
収益状況

当月の県内収益状況 DI 値は、前月より 5.8 ポイント低下し、-34.6 ポイントとなった。全国においては、前月より 2.3 ポイント低下し、-27.9 ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況 DI 値は、前月より 9.6 ポイント低下し、-38.5 ポイントとなった。全国においては、前月より 2.3 ポイント低下し、-29.7 ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概 況-

8月の前年同月比 DI 値は図表2のとおり前月と比べ1指標が上昇し、7指標が低下した。主要3指標では「売上高」は変化がなく、「収益状況」は5.8ポイント低下し、「業界の景況」は9.6ポイント低下となった。

製造業のうち「縫製業」では、9月・10月の受注数量が昨年の8割に減少する見込みのため、厳しい状況が続く。本来ならば秋冬物の商戦時期だが、猛暑日や気温上昇の影響により店頭での商品の動きが鈍く、販売時期を逃す恐れがある。「金属製品製造業」は、自動車部品が減産傾向にあり、金型関連では新規受注の動きが見られず、鋼材販売においても受注量が激減している。

非製造業のうち「自動車整備業」で、若年層の自動車整備士減少が問題視されている。組合員の工場では人員不足による影響もあり、設備操業度が上昇した。「貨物自動車運送事業」は、お盆前に輸送量が一時増加したが、その後は減少傾向になり、消費関連品や機械関連品の輸送量が大幅に減少した。一方、「貨物軽自動車運送業」では、お盆休み中、生鮮食品などのスーパーマーケット配送センターへの配送やコンビニエンスストア関連商材の緊急配送が重なり、受注が増加した期間となった。

当月のDI値はほとんどの指標で低下となった。多くの業種で人手不足に直面しており、退職者の補充等に伴う新規採用への不安が残る中、人件費などのコスト上昇に対する価格転嫁が追いつかず、収益を圧迫している。連日の猛暑の影響により客足が減少し消費が停滞しているほか、熱中症対策に伴う経費増加も企業や家計の負担となっている。加えて、米国関税問題や物価上昇による先行きが見通せない状況が続いている。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	25.0	-25.0	25.0	-25.0	-25.0	-25.0	0.0	0.0	-50.0
繊維・同製品	-25.0	0.0	25.0	0.0	-25.0	0.0	0.0	0.0	-25.0
木材・木製品	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-50.0	0.0	-25.0	0.0	-50.0
印刷	-100.0	0.0	100.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	0.0	25.0	25.0	-25.0	-25.0	25.0	-50.0	25.0	-25.0
鉄鋼・金属	-100.0	0.0	0.0	-50.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0
一般機器	25.0	25.0	25.0	-25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	-25.0
製造業	-24.0	0.0	16.0	-24.0	-28.0	-8.0	-16.0	-4.0	-36.0
卸売業	-33.3	0.0	0.0	0.0	-33.3	-33.3	0.0	-33.3	-33.3
小売業	-28.6	-28.6	14.3	-42.9	-57.1	-42.9		14.3	-71.4
サービス業	50.0		50.0	-33.3	-50.0	-33.3		-16.7	-33.3
建設業	-40.0		20.0	-40.0	-40.0	-20.0		-40.0	-40.0
運輸業	0.0		0.0	0.0	-25.0	-25.0		-25.0	-25.0
その他	50.0		50.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-3.7	-20.0	22.2	-25.9	-40.7	-29.6		-14.8	-40.7
全体	-13.5	-5.7	19.2	-25.0	-34.6	-19.2	-16.0	-9.6	-38.5

図表2 【指標別DI値の推移】

	6年 8月	9月	10月	11月	12月	7年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	前月比
売上高	-11.5	-15.4	-9.6	-19.2	-11.5	-21.2	-7.7	-13.5	-5.8	-25.0	-15.4	-13.5	-13.5	0.0
在庫数量	-2.9	0.0	-2.9	-2.9	-5.7	-14.3	-2.9	-2.9	-2.9	-11.4	0.0	-2.9	-5.7	-2.9
販売価格	21.2	26.9	17.3	26.9	15.4	19.2	17.3	30.8	23.1	30.8	25.0	28.8	19.2	-9.6
取引条件	-5.8	-13.5	-9.6	-5.8	-9.6	-11.5	-17.3	-15.4	-11.5	-21.2	-23.1	-17.3	-25.0	-7.7
収益状況	-26.9	-19.2	-21.2	-36.5	-25.0	-26.9	-28.8	-32.7	-23.1	-28.8	-25.0	-28.8	-34.6	-5.8
資金繰り	-17.3	-19.2	-21.2	-25.0	-19.2	-11.5	-15.4	-15.4	-15.4	-21.2	-13.5	-13.5	-19.2	-5.8
設備操業度	-4.0	-16.0	-8.0	-20.0	-16.0	-4.0	-12.0	-16.0	-20.0	-24.0	-12.0	-20.0	-16.0	4.0
雇用人員	-3.8	-5.8	-7.7	-11.5	-9.6	-7.7	-1.9	-11.5	-1.9	-5.8	-7.7	-5.8	-9.6	-3.8
業界の景況	-26.9	-30.8	-28.8	-36.5	-36.5	-34.6	-42.3	-38.5	-38.5	-40.4	-26.9	-28.8	-38.5	-9.6

特記事項

情報連絡員報告（令和7年8月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 （産業分類細分類相当）	組合等及び組合員の業況等 （景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	毎日の猛暑のため、人の移動が少ない様に感じる。又、物価の上昇による嗜好品の消費量が心配である。
	めん類製造業	お盆時期は、県内各地で人出が多かったようだ。各地でお祭りもあり、焼きそばの需要も多かった。その反面、地域によっては人口減少の影響で、飲食店の後継者難による廃業により、店舗の減少傾向に歯止めがかかってない。自分の子供がいても、継がせたくないというところもある。又、経営的には人件費の上昇や包装資材類の値上げで、利益が減少しているため、値上げを考えているところもある。零細製麺所においては、東京のM&A会社から連絡が多くあり、将来を考慮中との話もあった。別件であるが、得意先の飲食店において、社員さんが配送に行くと、何かとイチャモンをつけ嫌がらせをされるカスタハがあった。どのように対処したらよいか悩んでいるとの情報もあった。
繊維工業	縫製業	年間継続商品の受注数量が減少しつつある。9月、10月の受注数量の連絡が入ったが、昨年の8割に減っている。また、業界全体の市況が良くないことと、猛暑日や年々の気温上昇により、本来ならば秋冬商戦がスタートしている状況だが、店頭の商品が全く動かず、今年も販売時期を逃がす恐れがあり、重大な問題になりそうである。先行きが不透明である。
	染色整理業	10月以降の賃上げ対策が求められる。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	来春に向けての動きが出てくる時期だが、国内アパレルに関しては引き続き厳しい販売状況のようだ。販売価格を抑える意味でレースやボタン等の服飾資材も引き合いが少ない様子。一方で、海外向けの問い合わせは徐々に増えており、新たな販売先として今後期待できるのではと見ている。
木材・木製品	一般製材業	住宅用構造材は、原木価格が下がらないため、市況が悪い状態が続いている。非住宅市場が伸びているため、引き続き注力していきたい。
	家具・建具製造業	季節的な要因もあるものの、売上・収益が悪化とする事業所が目立つ。住宅関連事業所は業界の景況を悪化と捉える先が多い。
	木材・木製品製造業	住宅向け木材、建材の売上の落ち込みが大きい。平家住宅の物件はある程度あるものの30坪以上の物件は少ない。一方で、梱包向けの木材は堅調に推移している。但し、梱包向けも今後一段落する情報があり、年末に向けて景況感下落する可能性がある。
	木材・木製品製造業	販売量及び仕入量については流通部門、製造部門とも変わらない。
印刷	印刷業	季節的に需要が減る閑散期ではあるが、加えてペーパーレス化も進行しており、各社ともに厳しい状況である。用紙も今後再値上げの気配がある。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼向けは、昨年比で増加となった。建材関係は、昨年比で減少し、肥料関係は前年並みとなった。全体では、昨年比で増加となった。
	陶磁器・同関連製品製造業	11月の陶器市に向け、粘土の売上が良くなってきた。依然として、残暑が厳しいため、週末の来客数も少ないようだ。原材料の価格が高騰しているため、先月の理事会で供給品、購買品共に11月から値上げを決定した。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	自動車部品は減産傾向で、この先が心配である。お盆休み明けから、経済全般において特に厳しい環境と感じる。金型関連は、自動車向けの新規の話題が全くなく深刻である。鋼材販売では、8月に入り受注量が激減している。企業も家計も熱中症対策に必要な経費が膨らんでおり、物価高に加え金利の上昇が重くのしかかってきている。夏季賞与は支給したが、賃上げできる環境にはない。
	金属製品製造業	主にエレベーター部品が減少したため、売上高が減少した。
	金属製品製造業	主な問題点は、仕入価格の上昇、人材不足及び人件費等経費の増加である。
一般機器	一般機械器具製造業	8月は、全体としては各項目とも集計上は前月と比べ「不変」とする回答となったが、細かくは収益状況の「悪化」、資金繰りは「悪化」、雇用は「減少」、業界の景況も「悪化」と回答する組合員が多く、マイナスの回答が見られた。人手不足については、何らかの形で感じており、高卒者の採用が出来ないなど、今後の退職者の補充等で、雇用面で不安を残す。業務のデジタル化については、会計ソフトや受発注など一部で取り組んでおり、今後さらに導入する予定の声が多かった。環境やエネルギーなどへの対応は、エネルギー削減や廃棄物管理などに意識して対応している組合員が多い。
	一般機械器具製造業	例年2月、8月は落ち込むが、今年は休みが多かった割には良好だった。結果として、資金繰りは好転した。現在の状況は順調に進んでいる。

卸売業	各種商品卸売業	すべての項目で不変とする企業が多く、業況等は前年同期に比べ微増とするも「不変」とする企業が多い。トランプ関税の組合員への影響は今のところ出ていない。
	各種商品卸売業	業種・取扱商品によって流通量の増減に差がある。燃料価格は高止まりし、物価高騰と相まって収益を圧迫している。従業員の人員確保が難しい（募集をかけても集まりにくい）。賃金アップについても対応していく中で、原資の確保の他、労働時間問題についても検討していく必要があり課題も多い。
小売業	食肉小売業	今年も異常な暑さの日が続き、動物が水を飲みすぎて飼料を食べない。その結果、発育が遅れて出荷量が少なく、市場価格が上昇している。輸入食肉も輸送コスト高でアジア諸国に買い負けしている。
	その他の小売業	取引条件（BtoB）について、モノに対する仕入価格自体は、昨年同月と比較しても大きな変化は見られないが、負担する配送コストやその他設備使用料が大きく値上がりをしている。結果として、仕入価格が上昇し、取引条件が悪化している。これを（BtoC）の取引条件（価格）に転嫁したいところではあるが、事業の公益性の観点から、フレキシブルかつタイムリーに行えないところが難点である。
	各種商品小売業	小売業全体は穏やかに持ち直しているが、猛暑により客足は減少し、勢いは弱まっている。全体的に落ち込み、低調だった個人消費は横ばいとなっている。又、お盆休みの賑わいは、気温の上昇とともに人出が減り、消費の停滞を引き起こしたと思われる。買い回り品や食品では、高齢者の消費意欲が低下し、飲食店も苦戦が続いている。
	各種商品小売業	今年もまた 40℃に迫る酷暑の影響で、特にアパレル系の動きが悪かった。年々、夏が長くなってきており、秋物の動き出しも鈍くなると予想される。客数に関しても、異常に暑い日になると外出自体を控えてしまう傾向がある。
	花・植木小売業	お盆商戦により、主要の材料である白菊の価格が例年よりは安定した。仕入のタイミング（セリ）により多少の収益アップが出来た組合員もいたと思う。販売方法や販売先も重要だが、計画的な仕入ができるかどうかが最重要である。
サービス業	理容業	顧客の来店頻度は、依然と比較すると間隔が長くなっている方が増えてきている。これは物価高騰による家庭の経済状況の変化であると考えられる。その分を埋めるためには、各サロンの特色を活かして顧客離れを防がなければならない。組合で開催するセミナーでそのヒントを得て、実践していきたい。
	自動車整備業	組合員工場の人員不足による影響もあり、設備操業度が上昇した。若年層の自動車整備士減少が問題視されている。
	旅館・ホテル	8月の宿泊は非常に高稼働だった。宴会については、アメリカとの関税問題の懸念と物価高がホテルでの宴会によくない影響を与えている。飲食店では、物価高と関税問題による利用控えの影響が出ているように感じる。原材料の高騰の影響が非常に大きい。
	廃棄物処理業	令和7度災害廃棄物処理に係る支援要請伝達訓練に参加した。来年1月には浄化槽セミナー講習会を開催する予定である。
	給食センター	新米が出る時期だが、またお米の値上げの申請がきた。そのため、価格がなかなか下がらない。
建設業	職別工事業	前年同月と比較して、受注高・売上高とも減少傾向にあり、業績は低調である。収益面においても減少しており、9月以降の受注増に期待をしている。
運輸業	貨物自動車運送業	貨物輸送量としては、お盆休み前は増加していたが、その後は著しく減少傾向になり、消費関連品と機械関連品の輸送量が大幅に減少した。建設資材を扱う事業者は、やや改善傾向にある。全体的には、米国の関税措置による事業環境の不透明化と物価の上昇が重なり、厳しい環境が続く見通しである。
	貨物軽自動車運送業	お盆休みは9連休で、土日を含めると15日間が休日となり、例年通り稼働日数が少ない月となった。連休前後の受注はいつも通りの勢いがあった。お盆休み中は、生鮮食品などのスーパーマーケット配送センターへの配送やコンビニエンスストア関連商材の緊急配送が重なり、慌ただしいお盆となった。9月に予定されている引越しの問い合わせも、メールや電話でそれなりにあった。
	一般旅客自動車運送業	栃木県においても8月は猛暑日が続ки、タクシーの売上の的にはプラスに働いていると感じる。夕方から夜間の外出及び外食の人出が多かったようにも思う。お盆時期も前半はそれほどでもなかったが、後半は各駅及び街中のタクシーの利用は多かった。近年は夕方の雷雨が以前よりも少なく、前記の要因にも繋がっているようだ。
その他の非製造業	大谷石採取業	組合員の業況に変化はないが、観光地としての問題点は駐車場不足である。